令和６年度　第１回福祉部会研修会　報告

日　時　令和６年７月１９日（金）１４：００～１６：３０
方　法　対面とオンライン（ハイブリット）
会　場　ウィンクあいち（愛知県国際労働センター）１００５会議室
参加者　対面　１４人　オンライン１３人
テーマ　リスクマネジメントを考える
　　～リスクへの意識を高め、食べる人と自分自身を守る～
講　師　　社会福祉法人英楽会　管理栄養士　小島三枝先生

高齢者福祉施設の管理栄養士および施設管理者でもある講師から、窒息事故や胃ろうへの倫理的な視点も含めたリスクマネジメントの考え方を学んだ。

昨今、高齢者福祉施設や保育所等において窒息事故で法的責任を問われる例が増えている。施設の中で食の専門職として対象者の疾患や年齢に適した食環境を多職種と考え、根拠に基づき食形態を検討し安全に食事を提供することが求められている。その分、我々現場の管理栄養士・栄養士の職種もリスクマネジメントの必要性は高まっている。

講師から例として、ドーナツ事件で詳しく説明いただいた。おやつの内容がドーナツからゼリーへと変更になったことを介護職員より伝えられていなかった看護師が誤って提供したことで有罪判決を受けた内容であった。介護職員でなくとも栄養職種がおやつの変更を伝える立場になることもあり、リスクマネジメントの視点をもった食支援が必要であることを実感させられた。

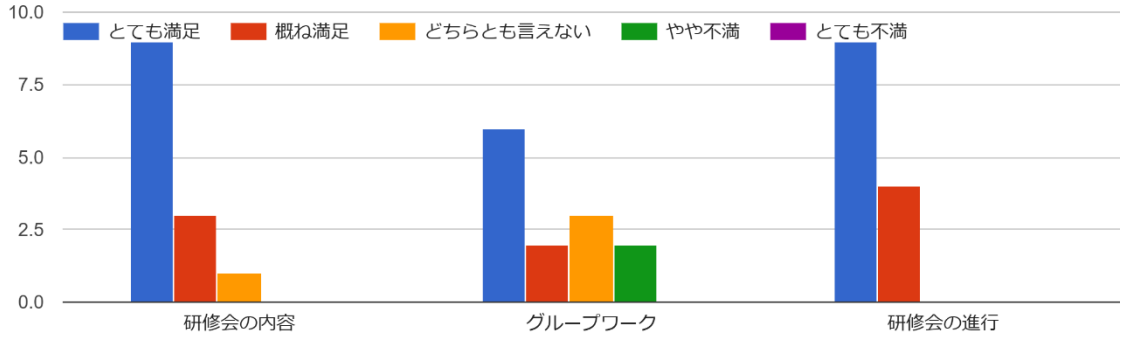
また、倫理的な側面からのリスクマネジメントの例もあった。時として「本人の希望」「家族の想い」「施設職員の事情」により、本人の健康を維持するための食事提供が難しい場面も多く存在することについての事例を複数紹介いただいた。グループワークでは、誤嚥性肺炎を繰り返す男性に対し、医師は胃ろうを提案、本人は拒否、家族も本人の意志を尊重し口から食べてもらいたいという例があった。そして、可能な限り安全な食事介助方法を家族に指導し、家族が持参したものを家族が食べさせるのであれば何も言わない（黙認）する方針とした事例をグループで話し合った。この時に倫理 4 原則や事実と価値の区別をすることの重要性を学んだ。そして、倫理的な気付きを参加者は学ぶことができた。

グループワークは、対面は初めて会った人とも交流を深める機会になったようだった。また、オンラインであってもホワイトボード機能を用いて対面に近いディスカッションができた。

参加者からはとても良い研修会であったとの話もあり、今後も参加したいと言われていた。今後も対面とオンラインとのハイブリットによる研修会を行うことで、会員に学ぶ機会を増やせるよう検討していきたい。

（報告者：奥村　圭子）

６.研修会の満足度を教えてください



＜受講者の声＞
リスクマネジメントを考えるにあたり、まずは事実と価値を分け、分析していくこと。
普段の業務で気をつけるべきリスクを考えるきっかけになりました。
事実と価値の区別が重要で難しいことがよく分かりました。
施設における様々なリスクについて考えることができました。
リスク、事故分析にはいくつかの種類があって、状況や分析したい事柄によって使い分けが必要となってくること。 また事故報告書の書き方の工夫点についても勉強になりました。
倫理的気づきの考え方は無かったので良かった。 他の職員に説明する上でも伝えやすくなる。
事例やグループワークをする中で、これからも食事形態を変更する際にケアマネ・看護師・介護士への情報共有も怠らず、日頃から入居者様へ寄り添い愛のあるケアをしていきたいと再認識しました。
窒息誤嚥事故で、判例として挙げられていた食品や状況を聞いて、自分もそういった状況を作らないように予防できる所が役立った。
ハラスメントコミュニケーションにおいて、業者さん等の相手への気遣いの欠如が、チャンスを逃しピンチを招くことを学んだ。
　普段の業務の中では礼儀を忘れず、関わっていきたいと思った。
Zoom でホワイトボード機能を初めて使いました。 小島先生がご自身の体験を含めながらお話しくださったので、よく理解ができました。 自分の施設での見直しをする機会になりました。
オンラインでも受講が可能だった事です。 実際の現場の写真を用いて、考察・評価を聞く事が出来たのでそちらも良かったです。